

福島県

中学教育

発行所
福島県中学校教育研究会
責任者 高澤 正 男
印刷所
(株) 第一印刷
福島市岡島字古屋館1番2
TEL 024-536-3232

○巻頭言「冬の散歩道」	福島県中学校教育研究会 副会長 佐藤 健夫	(1)
○随想「研修の大切さ」	福島県中学校教育研究会 副会長 金子 景二	(2)
○随想「朋遠方より来たる有り」	福島県中学校教育研究会 事務局 長 嶋原 俊洋	(2)
○令和6年度 運営方針及び事業計画(案)		(3)
○令和6年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方		(4)
○令和6年度 研究推進計画(案)		(5)
○令和6年度 各教科研究主題及び服主題一覧		(6)
○令和7年度(～4カ年) 研究主題(基本主題)		(6)
○令和5年度 支部の活動状況(福島、両沼)		(7)
○専門部のあゆみ(国語、道徳)		(8)
○令和6年度 総会についてのお知らせ		(9)
○令和6年度 福島県中学校教育研究協議会要項(案)		(9)
○令和5年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧		(10)

巻頭言

冬の散歩道

福島県中学校教育研究会 副会長 佐藤 健夫



この冬は暖冬なのだろう。師走というのに稲を刈り終えた田の稲が青々としていました。よく見ると、稲刈り後の稲の茎から、新しい青い稲が生えているのです。これは「孫生え(ひこばえ)」といわれ、再生稲とも呼ばれるそうです。このまま孫生えが大きく成長すれば、また米が出来るという考

えてしまいますが、そうはいかず穂が出る前に枯れてしまうか、穂が出て中身は空のことが多いそうです。また、同じ散歩道でタンポポが咲いているのを見つけました。黄色い小さな花が精一杯「ここにいるぞ」と咲いています。「春遠からじ」を感じさせる冬の田園風景でした。ともに冬の散歩道で、生命力とその力強さに驚かされました。

冬至近くなると夕暮れも早く、散歩に出る頃は辺り一面暗闇で、頭上には満天の星が輝いています。空気が澄んでいるので星々は揺れるように輝いています。ある時には流れ星が流れ、運が良ければいくつかの人工衛星も見つけることもできます。

地上から宇宙へと目を向けると、世界や自然の深さと広がりのようなものに惹かれ、どんどん知の欲求が沸き広がっていくのを感じます。

子どもたちが「何を学ぶか」そして子どもたちが「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりは保証されなければなりません。課題の発見とその解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習や、そのための指導の方法等を充実させていくことはとても大切です。自分の目標や進度に合った形で学んだり、興味関心のあるものを選んで学んだりする「個別最適な学び」が推奨されていますが、これだけを推進していくと、学校では子どもたちが個別に黙々とタブレット端末等に向かって学ぶような姿が頭に浮かびます。そんな時、「対話的な学び」は一層必要なのだろうと考えます。自分の興味関心をさらに広げ、疑問や考えをぶつける相手がどれだけいるか。

自然や季節、同年代の子どもだけでなく、教職員、地域の人々、先哲など幅広いものがあればあるほど、自分と他者の意見や考え方を比較したり、幅広い気付きを得ることができるのでしょう。様々な対話を通して、考えを広げたり深めたりできるようになるのだろうと、冬の散歩の道すがら愛犬とともに草花との対話、星との対話から広がる世界に思いを馳せていました。

See what's become of you while You looked around for your possibilities.

【お知らせ】各専門部の「令和6年度部報」は、ホームページよりダウンロードしてご使用ください。

随 想



国語科の教師として子どもたちの前に立つようになってから早30年以上が過ぎます。この間、いろいろな研修を受けさせていただいたおかげで、自分の授業力向上に役立てることができたことは間違いありません。その中で、特に印象に残っていることを2つ紹介します。

1つ目は「教材研究の大切さ」についてです。わかりきったことではありますが、ともすると当たり前すぎて、かえってスルーされてしまいがちなことでもあります。先日も学力向上の講演会があり、いろいろと授業に生かせるヒントをいただき、大変有意義な時間となりました。講演会の後、その講師の方と話している中で、「コーディネート」についてどのように考えているかを伺ってみました。すると、講師の先生は、「コーディネートはスキルではなく、深い教材研究から得られるものだと思っています」とおっしゃったのです。我が意を得たり、でした。「コーディネート」を「技術」と考えてあれこれ議論しても、教材研究が浅ければ、子どもたちの意見を十分に拾うことも、全体の学びに生かすこともできません。逆を言えば、深い教材研究をしてから授業に臨めば、子どもたちの意見の根拠にも推察が及びますし、いろいろな意見が出て余裕を持って対応できる

研修の大切さ

福島県中学校教育研究会 副会長 金子 景 二

ことでしょう。昔、指導助言をいただいた先生の話の中で、「私は教材研究では教科書を100回は読むようにしています。読む度に新たな発見があり、それらを書き留めていきながら、教材の理解が深まっていきますから」と言われたことが今でも忘れられません。私自身はついに実行したことがなかったので、その境地に至ったことはありませんが、先ほどの講師の先生の話と通じるものがあると思います。子どもたちと向き合う前に、まずは教材と十分に向き合い、その理解を確かにすることが大切であることは間違いありません。

そして、もう1つ、RSTの研修を通して学んだことがあります。「まずは教科書を読める子どもを育てましょう」。教科書が読めないのでは、家庭で自分一人で学習することはできない、という当たり前のことが、とても新鮮に感じました。そして、授業で私たちが意識すべきことは、「つまづきを把握して、レディネスをそろえること」。そうしないと、目指すゴールに全員で向かうことはできません。

「子どもたちは教科書を読めているのか」

「子どもたちの考えについてそれが出て当然と思えるほど教材研究をしているのか」

ときどき頭をかすめていただければ幸いです。

随 想



「朋遠方より来たる有り、亦楽しからずや。」（「論語」学而より抜粋）

昨年10月5日に開催された県研究協議会いわき大会の翌日、職員打合せで私が発した第一声でした。誰もが知る「論語」の一節です。

協議会当日、各会場を巡り、先生方の熱い協議の様子を見て、まさにこれだと思いました。県内各地からいわきの地に集い、教科の特性や本質について議論を重ね、授業を通してよりよい指導の術を学ぶ。そのような先生方の姿を見て、私は翌日、本校職員に伝えずにはいられませんでした。「昨日の県大会に参加して、そこで改めて思いました。私たちは常に、研修し続けなければなりませんね。先生方の熱い思いに触れた一日でした。本校も一丸となって頑張っていきましょう。」と。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、過去3年間は従来の形で研究協議会が開催できませんでした。令和2年度は大会そのものが中止、令和3年度は直前になって紙面開催へ移行、令和4年度は参集とオンラインを併用したハイブリッド型での開催でした。そして今年度、4年ぶりに参集型という本来の研究協議会を開催することができました。ここまでこぎ着けたのは、3年前から準備をしてこられたいわき地区の先生方の「必ず参集型

朋遠方より来たる有り

福島県中学校教育研究会 事務局長 鴨 原 俊 洋

で皆さんに授業を見ていただく。」という熱い思いと、県内の先生方のご理解・ご協力のお陰です。

いわき支部長の松本仁志校長先生は、中教研の会議の度に「授業を見てもらって、指導・助言をいただける。これは、その人の指導力が向上するばかりでなく、いわき地区の先生方の向上、子どもたちの成長につながるのだから、今回の機会はありがたいですね。」とおっしゃっていました。そのような松本支部長のリーダーシップの下、いわき地区の先生方が一枚岩となって、今大会運営に尽力いただいたことに心から感謝申し上げます。

事務局としては、数年前から県中教研のあり方・運営の仕方を見直してきました。会議数の削減や会費の値下げ、そして、次年度からの県大会は地区別分散型の開催とすることなどです。先生方の負担を軽減しながら、授業について語り合い、授業改善に生かすことのできる組織であるための変革を今後も継続していきたいと思ひます。

最後に、次年度からは県内各地で県研究協議会が開催されます。大きな改革の初年度になりますが、われわれ教師の使命と責任を果たすためにも、「朋遠方より来たる有り、亦楽しからずや。」を実感できる研究会を目指し、中教研だからこそできる研修を充実させていきたいと考えています。皆様、ご協力よろしくお願い致します。

◆ 令和 6 年度運営方針及び事業計画(案) ◆

1 運営方針

生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒を育てるため、会員一人一人が教育者としての自覚と使命感に基づき、自己研鑽を深め、切磋琢磨して、資質の向上を図り、中学校教育を一層充実振興する。

- (1) 基本主題設定の趣旨と各専門部の研究主題により実践研究を深め、各支部活動・各専門部活動を充実し、その成果を共有する。
- (2) 授業の質的改善を中核に研究を推進し、生徒の学力の向上及び心の教育の充実に資する。
- (3) 学習指導要領の趣旨やねらいに基づき、新しい教育の方向を見据えて研究活動を推進し、会員の資質向上を図る。
- (4) 合併（予定）支部については、引き続き特段の配慮をする。

2 努力事項

- (1) 研究活動の充実
 - 基本主題並びに各専門部の研究主題、副主題の趣旨、ねらいの理解を深めるとともに、その解明に努める。
 - 前研究主題での成果と課題を踏まえ、研究主題設定 2 年次の研究課題を明確にして研究を推進する。
 - 会員一人一人の教育の実践研究の成果を支部研究

協議会や県研究協議会を通して共有し、研究内容の一層の質的改善を図る。

- (2) 研究奨励事業の推進
 - 会員の自発的な研究活動を促進し研究内容の質的充実を図るとともに、研究活動事業を推進する。
 - 生徒の学習や自主的活動を奨励し、学習成果の発表等の推進を援助する。
- (3) 広報、出版活動の充実活用
 - 会報や各専門部部報の内容を充実させ、各支部、各専門部の情報交換や会員の教育活動に資する。
 - 研究集録の充実に努め、研究発表や研究協議会の成果の共有化を図る。
 - 学習指導について有効に活用できる広報活動の充実に努める。
- (4) 事業運営の工夫
 - 会議や研究協議会等の効率的な運営改善に努める。
 - 県研究協議会の運営に対する適正化について一層の検討を重ね、今後の研究会等の運営について工夫改善を図り、また、予算を効率的、且つ適正に運用する。
 - 合併（予定）支部の活動においては、支部の実情を踏まえて推進する。

3 事業計画

月 日	行 事 名	内 容	会 場	備 考
4 月中旬	支部総会	支部総会、専門部総会	各 支 部	
5.10(金)	総会・支部長会（午前） 支部専門部長会（午後）	総会：各支部長のみ参加、 支部専門部長会：主題研修、専門部研究方向決定	福 島 市	
5.23(木)	理事会	県研究協議会の運営、主題研修会の反省、ワークブック刊行計画、専門部の経理事務の進め方、研究作品第一次審査	福 島 市	県専門部長、県事務局
6. 7(金)	研究作品審査会	研究作品第二次審査	福 島 市	県事務局
7 月下旬	機関誌発行①	第147号（総会特集など）		
7 月下旬	各支部研究協議会（夏季）	令和 6 年度研究主題による研究協議会、 県研究協議会参加者の決定	各 支 部	
8.19(月)	委員・理事合同会①	総会の反省、県研究協議会の運営、ワークブック刊行、研究作品審査結果	福 島 市	各支部長、県専門部長、 県事務局
9. 9(月)	ワークブック契約会	令和 7 年度使用ワークブックの契約	福 島 市	関係県専門部長、県事務局
9 月下旬	機関誌発行（特集号）	研究作品『優秀賞』特集		
10. 4(金)	県教育研究協議会	授業公開、各専門部研究協議会	各 地 区	
10月～11月	各支部研究協議会（秋季）	令和 6 年度研究主題による研究協議会、県研究協議会の報告	各 支 部	
12月～2月	各専門部会	各専門部の研究推進、部報発行		
12月下旬	研究集録発行	県研究協議会会津大会のまとめ、研究主題の解説		
1.15(水)	委員・理事合同会②	令和 7 年度運営計画、総会・支部長会・支部専門部長会運営	福 島 市	各支部長、県専門部長、 県事務局（※オンライン）
2 月下旬	研究作品提出締切り	令和 6 年度各支部研究作品提出		
3 月上旬	機関誌発行②	第148号（令和 7 年度運営計画、研究主題、研究推進）		県事務局
3.14(金)	会計監査	令和 6 年度会計監査	福 島 市	

- ※ 令和 6 年 8 月 2 日(金) 県中学校美術ゼミナール (郡山市)
- ※ 令和 6 年 9 月 10 日(火) 県下小・中学校音楽祭（第 1 部合唱） (福島市音楽堂)
- ※ 令和 6 年 9 月 13 日(金) 県中学校英語弁論大会 (矢吹町文化センター)
- ※ 令和 6 年 10 月 11 日(金) 県下小・中学校音楽祭（第 2 部合奏） (喜多方プラザ)
- ※ 令和 6 年 11 月 29 日(金) 県生徒造形作品研究会並びに秀作審査会 (郡山市青少年会館)

◇ 県中教研事務局会

- | | | | |
|-------|-------------|-------|--------------|
| 第 1 回 | 4 月 30 日(火) | 第 4 回 | 10 月 24 日(木) |
| 第 2 回 | 7 月 30 日(火) | 第 5 回 | 1 月 9 日(木) |
| 第 3 回 | 8 月 29 日(木) | 第 6 回 | 2 月 19 日(木) |

令和6年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方

基本主題：「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」

1 基本主題設定の趣旨

これからの時代は、生産年齢人口の減少、グローバル化や技術革新等により、社会構造や雇用環境が急速に大きく変化する中、急激な少子高齢化が進み、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。また、人工知能（AI）が飛躍的な進化をとげ、雇用の在り方や学校で獲得する知識の意味に大きな変化がもたらされても、思考の目的を与えたり、目的の正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっていくとも言われている。

このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。子どもたちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。

令和4年度から、基本主題「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」に基づき研究を推進してきており、次年度は、本基本主題の最終年度となる。令和3年度に新学習指導要領が全面实施となったことを踏まえて、今までの研究成果を基に、各教科で「主体的・対話的で深い学び」をさらに具体化、深化させる3年間の研究になると考える。また、「生きる力」という理念をより具体化した「社会を生き抜く資質・能力」を育むには、これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を各教科等において明確にすることが重要になる。

基本主題には、震災から10年以上が経過しても、子どもたちが変化する社会の中で、ふるさとふくしまに思いを寄せ、復興の中心となって新たな未来を創造するために活躍できる人材に育つことを願い、県中教

研として、そのような生徒を育てなければならないという使命感も込められている。

各専門部においては、これまでの研究の成果及び課題を十分に踏まえながら、これらの趣旨に基づき、会員一人一人が、本会の目的に適合した主体的な研究が発展的に推進できるよう、創意工夫が望まれる。

2 研究の進め方

東日本大震災から10年以上が経過してもなお厳しい教育環境の中にあって、「生徒にとって、最も身近で、最も重要な教育環境は教師であり、授業である」ことを肝に銘じ、本会設立当初の「教育を愛する者が、愛する生徒たちのために、自分に鞭打つその鞭を求めて集い合う研究団体である」という原点に立ち返って、教師としての情熱と使命感をもって研鑽に励むことが望まれる。

各支部・各専門部は、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえつつ、基本主題設定の趣旨を十分に踏まえた上で、研究のねらい、内容や方法を明示して研究実践に取り組む必要がある。そのために次の点をおさえて実践内容の重点化を図り、研究の深化が得られるように努力する。

- (1) 基本主題、研究主題・副主題の設定の趣旨の周知を図り、その趣旨が十分に生かされた研究実践を推進する。
 - 会員の共通理解に立った研究計画のもと研究を実践する。
- (2) 各支部においては、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえながら、研究推進3年次として課題と方向性を明確にして研究実践を推進する。
- (3) 会員一人一人が、研究主題・副主題の趣旨を理解し、自校の生徒の実態に即応した、実効ある研究を推進する。
 - 生徒の実態をとらえ、課題を明らかにし、研究の有効性を的確に評価しながら継続的に研究実践を推進する。
- (4) 支部研究協議会の運営等について工夫し、各専門部の研究活動を充実させる。
 - 各支部会員相互の研究実践に対する意識の高まりを促し、充実した運営を工夫する。
- (5) 各教科で発行している部報を適切に活用し、研究実践を推進する。
 - 日常的な研究実践に活用するとともに、支部専門部長会報告会、研究協議会での活用を図る。

令和6年度研究推進計画(案)

会 議 等	期 日	内 容 ・ 方 法
各支部専門部 総 会	4月22日(月) まで	- 事業計画の検討、役員改選を行い、研究の進め方を具体化する。 - 部報等をもとに、研究主題・副主題を確認し、支部専門部としての研究の進め方について協議し、研究推進計画と実践計画試案を作成する。
支 部 専門部長会	5月10日(金) (福島市)	- 各専門部ごとに、研究主題・副主題の確認及び事業計画の検討を行い、役員を改選する。 - 研究の進め方の細部調整を図る。 ◎ 県専門部長は、事業計画・専門部組織を県総務部長に報告する。 - 引き続き行われる主題に関する研修には各支部専門部長が参加することとし、資料として支部の研究推進計画等を30部印刷して持参する。 - 資料をもとに、次の事項について協議する。 (1) 研究主題・副主題の受け止め方についての共通理解 (2) 研究の具体的内容、研究の方法と手順、研究分担、まとめ方・発表の仕方の分担 (3) 支部報告会での伝達の仕方、支部研究協議会・県研究協議会の持ち方等 (4) 県研究協議会参加者の資料書式を確認する。 - 各支部専門部長は、研究内容・方法を具体化して支部専門部員に伝達する。
支 部 専門部長会 報 告 会	5月末日まで	- 研究内容、研究方法、まとめ方等について報告する。 - 報告内容をもとに、支部専門部としての研究推進の具体細案を協議する。
支 部 研究協議会	7月下旬まで	- 研究分担による研究や各会員の研究を持ちよって協議し、支部としての成果、結論、問題点をまとめる。 - 県研究協議会参加者を決定し、支部長に報告する。 - 県研究協議会参加者(発表者)は、支部研究概要をまとめて、所定の期日までに県研究協議会の1次案内で指定する学校にメールで送る。
県研究協議会	10月4日(金) ※地区別 分散開催	- 県研究協議会参加者(発表者)は、要項等を県中教研のホームページからダウンロードし、県研究協議会に臨む。 - 発表者は、支部の研究内容を中心に発表する。 - 代表者は、支部研究協議会の成果、結論、動向、問題点などを報告したり、課題となる協議事項を提案したりする。 - 各部会では、発表や協議内容をもとに成果や結論、残された課題を明らかにする。 - 開催支部の専門部では、提案授業をもとに研究集録の原稿を作成し、期日までに県専門部長に送付する。県専門部長は、原稿を精査し、期日までに県研究推進副部長に送付する。 - 各支部では、県研究協議会終了後、各専門部ごとに報告会を持ち、成果や課題を確認するとともに、次年度以降の研究の進め方について協議する。 - 県総務部長は大会2週間前までには、県研究協議会の部会の指導助言者に県大会要項と研究主題解説の部報またはそのコピーを送付する。
県 専 門 部 役員会・研究 推進委員会	11月下旬まで	専門部ごとに役員会、もしくは研究推進委員会を開き、県研究協議会の成果や反省をふまえ、次年度以降の研究主題・副主題の解説、研究の進め方、事業計画について協議する。 ◎ 県専門部長は、その成果を支部専門部長に提案する。
支 部 専門部長会	12月～2月	- 専門部年間事業を反省し、次年度以降の研究の構想を話し合う。 - 次年度以降の研究主題・副主題の解説、研究の進め方、研究のまとめ方、研究の分担、主題研修会、支部研究協議会、県研究協議会の持ち方、発表支部・分科会の構成の確認、次年度計画等を協議する。 ◎県専門部長は、協議内容をもとに部報発行の準備をする。
部 報 発 行	2月下旬まで	- 専門部ごとに、「部報」を発行し、HPに掲載する。 「部報」の主な内容は、研究副主題の解説、研究の進め方、研究のまとめ方、研究の分担、支部研究協議会、県研究協議会の持ち方、発表支部・分科会の構成の確認、次年度計画等とする。 - 支部長を通じて、支部所属会員に対してダウンロードを周知する。 ◎ 県専門部長は、県研究推進部長に部報をデータで送付する。
支部専門部会	2月末日まで	本年度のまとめと、次年度以降の研究の進め方についての解説を行う。(支部専門部長会協議内容の伝達等)

令和6年度各教科研究主題及び副主題一覧

専門部会	研究主題・令和6年度研究副主題
国語	◎ 言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどうすればよいか。 R6 国語における学びに向かう力の評価の工夫
社会	◎ 持続可能な社会を実現するために必要な資質・能力を育む社会科の指導はどうすればよいか。 R6 協働的な学びを通して、新たな価値を創造する力を高める授業の工夫
数学	◎ 数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R6 知識及び技能の習得を図る指導の工夫
理科	◎ 科学的に探究する学習活動を通して、未来を創造するための資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R6 日常生活や社会との関連から見いだした課題を探究し、学んだことを自己や地域に生かそうとする学習活動の工夫
音楽	◎ 音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R6 感性を豊かにする指導と評価の工夫
美術	◎ 多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。 R6 美術の広がりや自己表現
保健体育	◎ 体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。 R6 自他の健康課題に気づき、知識を活用して正しく判断し、意思決定と行動選択ができる指導計画や学習過程の工夫（保健分野）
技術 家庭	◎ 生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか。 R6 よりよい生活の実現のため、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するためのふり返りの工夫
英語	◎ 社会や世界と向き合い、他者との関わりを大切にしながら目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。 R6 言語活動（指導）と評価の一体化のための工夫
道徳	◎ 自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか。 R6 自己の学びと自らの変容を実感することができる評価の工夫
特別活動	◎ 様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み、集団や個人の課題を解決し、よりよい社会を創ろうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。 R6 集団や社会の一員として、将来や自分らしい生き方を創造する力の育成

令和7年度（～4か年）研究主題（基本主題）

主体的・対話的で深い学びを通して、多様化する社会に対応する
資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成

- 各支部からの案を基に、事務局で検討を重ね、1月17日(水)に行われた「県中教研第2回委員・理事合同会」で承認を受け、決定した。
- 設定にあたっては、次の3点に留意した。
 - ・各支部からの案を基に、各支部案の最大公約数を探り、それぞれの意図を尊重すること
 - ・中教審答申、学習指導要領の趣旨を踏まえること
 - ・震災からの復興という、ふくしまならではの視点を意識すること
- 「主体的・対話的で深い学び」について
 - ・現学習指導要領を踏まえた授業実践が5年目を迎えることとなる。今までの研究成果や課題を踏まえて、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させながら、各教科で「主体的・対話的で深い学び」をさらに効果的に具現化する研究実践を積み重ねていく4年間になるであろう。
- 「多様化する社会に対応する資質・能力」について
 - ・急激に変化し、多様化する社会の中で、予測困難な未来を生きていく子どもたちが、社会や世界に向き合い、関わり合いながら、よりよい社会を能動的に創造し、自分の人生をたくましく生き抜いていくために求められる資質や能力を、各教科で明確にしながら育ませたいと考え、「多様化する社会に対応する資質・能力」とした。
- 「ふくしまの未来を創造する」について
 - ・令和7年度は震災から15年目となるが、復興・再生は未だ道半ばである。子どもたちが、ふるさとふくしまに生きることに誇りをもち、復興・再生に向かって未来を創造しようと考え、行動できる人材に育つことを願い、県中教研として、そのような生徒を育てなければならないという使命感をこめて主題とした。

***** 令和 5 年度支部の活動状況 *****

福島支部

1 支部の実態

福島支部は、福島市内19校、川俣町内2校、福大附属中、桜の聖母学院中の計23校で構成されている。会員数は317名である。専門部は、各教科、特別の教科道徳、特別活動を設けており、それぞれの専門部で県中教研の方針に基づいて研究を推進すると共に、会員同士の交流を深め、互いに相談し合える関係性を築いている。

2 主な活動

今年度の主な活動は、次の通りである。

- 4月10日(月) 学校委員・各研究部研修会
- 4月20日(木) 第1回事務局会
- 5月15日(月) 第1回委員・理事合同会
- 5月22日(月) 主題研修報告会
～ 26日(金)
- 7月14日(金) 会報発行
- 7月25日(火) 研究協議会
- 10月5日(木) 県中教研いわき大会参加
- 10月下旬 県大会報告会
- 1月11日(木) 第2回事務局会
- 1月18日(木) 第2回委員・理事合同会
- 2月1日(木) 会計監査
- 3月上旬 会報発行

この他に、生徒会交歓会(特活)、英語弁論大会(英語)、しのぶ展・生徒造形作品審査会(美術)等の事業を行っている。

3 研究の成果と課題

- (1) 初の試みとして、教育コースの指定を受けた県立橋高等学校と福島東高等学校の、教員を志す1・2年生数名が、7月25日の研究協議会に参加した。昨今の教育課題に対応した授業の在り方等について研修する教員を知ること、教職に対しての一層の理解につながった。また、教員の人材不足を補う意味でも、次年度も高校側と連携を図っていききたい。
- (2) 次年度より、県大会の開催が教科ごとに地区別で行われ、令和6年度、本支部では、国語・英語・美術を担当する。県大会に向け、各教科の専門部長が中心となり、会員相互の連携を深めながら、協力して研究に当たりたい。
- (3) どの専門部でも会員数が減少している。今まで1日開催としていた、夏の研究協議会を次年度より2日間開催とし、特別の教科道徳と特別活動を2日目に設定する。両者の会員でない教員にも門戸を開き、専門教科以外の研修にも参加できる機会を設けていきたい。

両沼支部

1 支部の状況

両沼支部は、湯川村(1校)、会津坂下町(1校)、柳津町(1校)、会津美里町(3校)、三島町(1校)、金山町(1校)、昭和村(1校)の7町村9校で構成されている。本支部は、地域的に広範囲にわたっており、多くの学校が小規模校である。会員数は69名である。専門部は、各教科、特別の教科道徳、特別活動の外に、養護教員部会と特別支援教育部会を設置している。各部会とも、会員の指導力向上と教育の質的向上を目指して、日々実践研究と情報交換等を行っている。本支部は会員数が年々減少し、部会を維持できない専門部もあるため、研修会及び中教研主催行事の一部を隣接する耶麻支部と合同で実施している。

2 主な活動

今年度の主な活動は、以下のとおりである。

- 4月13日(木) 支部総会、専門部総会
- 5月22日(月) 県主題研修報告会
- 7月26日(水) 第一次研究協議会
- 10月5日(木) 県研究協議会いわき大会
- 10月下旬～11月上旬 第二次研究協議会

3 研究の成果と課題

- (1) 令和3年度より耶麻支部と合同で実施してきた研修会を、今年度も同様に実施した。合同で実施することで部会の会員数が増え、協議が深まり研究の充実を図ることができた。
- (2) 音楽科、美術科、技術・家庭科などは、合同開催でも会員数が確保できなかったため、全会津まで範囲を広げて研究を推進した。そうしたことで、会員数を確保することができ、協議が深まったことで、研究の充実を図ることができた。
- (3) 昨年度の県中教研会津大会で実施した、ICTを活用した研修を取り入れた専門部会も見られた。移動にかかる労力や旅費の削減、広域での研修会の実施等に有効なICTの活用を、今後も可能な範囲で取り入れていきたい。
- (4) 令和6年度から2つの支部を統合し、1つの支部で活動する予定である。会員数の増加により、研究実践を深めることができ、効率的な運営も期待できる。反面、参集型の場合、会場までの距離や時間が増え旅費の負担も大きくなることや、双方の特色ある活動を今後どのように生かすなど、課題も明確化された。それらを解決しながら、研究実践の一層の充実を目指していきたい。



専門部のあゆみ



国 語 部 会

研究主題「言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどうすればよいか。」

研究副主題 (2年次)「思考力、判断力、表現力等を育成する指導の工夫」

主な活動

- 県専門部総会 5月11日(木) 福島市立清水中学校
 - ・令和4年度事業報告・決算報告
 - ・令和5年度事業計画案・予算案
 - ・令和5年度役員選出
 - ・県主題研修会
 - 研究主題・副主題の確認と研究の進め方
 - ・令和5年度県研究協議会いわき大会
 - ・「国語スイッチ」について
- 主題研修報告会 5月下旬 各支部
 - ・県主題研修会報告
 - ・研究推進についての協議
- 各支部研究協議会 7月下旬 各支部
 - ・研究実践発表と協議、支部の研究のまとめ
 - ・県研究協議会いわき大会参加者の決定(確認)
- 「国語スイッチ」(ワークブック)編集委員会(13名)
 - ・第1回 6月29日(木) 福島市立清水中学校
 - ・第2回 12月中旬 資料送付
- 県研究協議会いわき大会(4年ぶり参集型で実施)
 - 10月5日(木) いわき市立平第一中学校
- ・公開授業
 - 1年 大川 美紀(平第一中学校)
 - 「『言葉』をもつ鳥, シジューカラ」
 - 2年 金澤 夢美(平第一中学校)
 - 「モアイは語るー地球の未来」
 - 3年 深沢 久美(平第一中学校)
 - 「人工知能との未来/人間と人工知能と創造性」
- ・分科会
 - 研究協議①(各支部の発表)
 - 研究協議②(授業研究, 指導助言)
- 国語部研究推進委員会
 - 12月11日(月) 松川学習センター(福島市)
 - ・令和5年度県研究協議会の報告
 - ・令和6年度研究の進め方
 - ・令和5年度「県中教研国語部報No.68」の検討
 - ・令和6年度「国語スイッチ」発行
- 令和5年度「県中教研国語部報No.68」の発行
 - 3月1日(金) 県中教研HPに掲載

道 徳 部 会

研究主題「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか。」

副 主 題 (2年次)「自己を振り返り、よりよい生き方についての考えを深めることができる指導方法の工夫」

主な活動

- 県専門部総会・主題研修会 5月11日(木)
 - 福島市 県青少年会館
 - ・令和4年度事業報告, 会計決算報告
 - ・令和5年度役員選出
 - ・令和5年度事業計画案, 予算案
 - ・令和5年度の研究内容と推進の仕方
 - ・令和5年度各支部の研究の方向と内容について
 - ・令和5年度県研究協議会いわき大会について
- 主題研修報告会 5月下旬 各支部
 - ・県主題研修会内容報告
 - ・各支部の研究推進について
- 各支部研究協議会 7月下旬 各支部
 - ・研究実践発表と協議
 - ・研究成果や課題の共有
- ・講師を招聘しての研修会等
- 県研究協議会いわき大会 10月5日(木)
 - いわき市立小名浜第一中学校
- ・公開授業
 - 1年 長瀬 訓 (小名浜一中)
 - 正義を貫くために「公正, 公平, 社会正義」
 - 2年 佐藤 奈々 (小名浜一中)
 - 気持ちを形に「思いやり, 親切」
 - 3年 鈴木 僚太 (小名浜一中)
 - 生命の尊重「生命の尊さ」
- ・分科会
 - 研究協議①(支部の発表, 指導助言)
 - 研究協議②(授業の事後研究, 指導助言)
- 県研究協議会いわき大会報告会
 - 10月下旬~11月上旬 各支部
- 県道徳専門部事務局会(部報作成会議)
 - 12月11日(月), 1月15日(月) 福島市立蓬萊中学校
 - ・部報56号(案)の作成
- 県道徳専門部支部長会 1月31日(水)
 - 本宮市立本宮第二中学校
- ・令和6年度研究主題, 副主題の解説検討, 研究推進の方向性, 部報56号(案)の検討
- 道徳部報発行 3月1日(金) 県中教研HP掲載

令和6年度 総会・支部長会・支部専門部長会についてのお知らせ

令和6年度 総会・支部長会・
支部専門部長会要項(案)

○日時 令和6年五月十日(金)
午前九時三十分～午後十六時三十分
○会場 福島県青少年会館・福島支部の中学校
(詳細は新年度に)

- 一日程
1 受付 九・〇〇～九・二〇
2 総会 九・三〇～九・五〇
3 支部長会 一〇・〇〇～一〇・二〇
4 支部専門部長会 一三・三〇～一六・三〇
- 二 総会(支部長及び事務局員)
1 開会のことば
2 会長あいさつ
3 決議報告【書面決議】
① 第一号議案 令和五年度会務報告
② 第二号議案 令和五年度決算承認
③ 第三号議案 令和六年度運営方針
並びに事業計画に関すること
④ 第四号議案 令和六年度予算
に関すること
⑤ 第五号議案 令和六年度会則改定
に関すること
⑥ 第六号議案 令和六年度役員選出
に関すること
新旧役員あいさつ
令和六年度事務局員委嘱
閉会のことば
- 三 支部長会
1 支部研究協議会の運営
2 県研究協議会の運営
3 支部運営の状況と問題点
4 その他
- 四 支部専門部長会
1 部長・副部長の選出、事務局員の委嘱
協議
2 年間事業計画、予算の確認
① 県研究協議会の運営
② 主題研修
③ 主題研修
④ その他

令和6年度 福島県中学校教育研究協議会要項(案)

1 目的

本県中学校教育研究会の設定した研究主題について、各中学校及び各支部の研究成果を持ち寄り、全県的な規模において研究協議し、会員の資質の向上を図るとともに、本県中学校教育の充実発展に資する。

2 主催 福島県中学校教育研究会

3 共催 福島県教育委員会

4 後援 福島県中学校長会

福島県市町村教育委員会連絡協議会

開催地区市町村教育委員会(福島市・郡山市・須賀川市・棚倉町・喜多方市・南相馬市・いわき市)

公益財団法人日本教育公務員弘済会福島支部
令和6年10月4日(金)

5 期日

6 会場

国語科 福島市立 平野中学校, 信陵中学校, 福島第四中学校

社会科 郡山市立 郡山第二中学校, 郡山第一中学校, 郡山第四中学校

数学科 喜多方市立塩川中学校

理科 南相馬市立原町第一中学校

音楽科 いわき市立小川中学校

美術科 福島市立吾妻中学校

保健体育科 棚倉町立棚倉中学校

技術・家庭科 いわき市立 平第二中学校(技), 泉中学校(家)

英語科 福島市立 西根中学校, 福島第一中学校, 福島第二中学校

道徳 須賀川市立 義務教育学校稲田学園, 大東中学校

特別活動 いわき市立湯本第一中学校

7 参加者 正会員(各支部代表会員), 各支部専門部長及び一般会員(開催地区会員)

8 日程

10:00	10:20	10:30	12:10	13:30	14:20	14:30	15:45
受付	開会式	研究協議①	昼食 休憩	授業公開	移動	研究協議②・閉会式	

※研究協議①: 支部発表, 各支部の取組に関する協議等

※研究協議②: 授業に関する協議

9 運営

(1) 本年度は, 研究主題3年次である。

- (2) 各中学校において, 各研究主題を自校の現職教育に取り入れ, 具体的な研究実践を推進する。また, 各支部において, 各中学校の教育実践の成果を支部研究協議会で共有できるよう計画する。
- (3) 各専門部会の授業数及び分科会数は, 次の通りとする。

教科等	研究協議① 代表参加者 支部発表等	授業数	研究協議② 代表開催地区 授業に関する協議
国語	3(1年, 2年, 3年)	3(1年, 2年, 3年)	3(1年, 2年, 3年)
社会	3(地理, 歴史, 公民)	3(地理, 歴史, 公民)	3(地理, 歴史, 公民)
数学	3(1年, 2年, 3年)	2(2年, 3年)	2(2年, 3年)
理科	2(第1分野, 第2分野)	2(第1分野, 第2分野)	2(第1分野, 第2分野)
音楽	1(全体)	1(全体)	1(全体)
美術	1(表現)	1(表現)	1(表現)
保健体育	1(全体)	1(保健分野)	3(指導)
技術・家庭	3(技術, 家庭)	2(技術, 家庭)	2(技術, 家庭)
英語	3(1年, 2年, 3年)	3(1年, 2年, 3年)	3(1年, 2年, 3年)
道徳	3(1年, 2年, 3年)	2(2年, 3年)	2(2年, 3年)
特別活動	3(1年, 2年, 3年)	3(1年, 2年, 3年)	3(1年, 2年, 3年)

- (4) 授業実施にあたっては, 支部専門部あるいは県専門部との十分な連携のもと適切な授業研究に努める。また, 支部専門部は, 支部内における研究推進計画に基づき, 授業実施に際しては組織的に支援する。
- (5) 開催地区においては, 実行委員会を組織し, 研究協議会の諸準備並びに運営に当たる。
- (6) 各専門部の責任者は, 県専門部長と連携を密にし, 適切な運営計画により事前の準備並びに当日の運営に当たる。特に専門部研究協議会は, 研究主題及び副主題に沿って十分な協議ができるようにし, 内容の充実を図るように努める。
- (7) 各支部代表参加者は, 事前に必要な資料を提出する。提出資料の部数, 期限等については第2次案内に明記する。
- (8) 開催地区においては, 地区内全会員が各専門部会の授業公開及び研究協議②に参加できるように配慮する。

10 研究のまとめ

研究実践の成果を「研究集録」としてまとめ, 各中学校に配付する。

●—— 令和5年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧 ——●

No	支部名	氏 名	学 校 名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	福 島	代表 高 澤 正 男	野 田 中	学 習 指 導	一人も取り残さない「わかる」授業システムの構築 ～リーディングスキル・アウトプット・リフレクションを通して～
2	福 島	代表 鈴 木 豊	信 夫 中	学 習 指 導	主体的に学び、互いに高め合う授業の創造 ～「聴き合う力」を基盤とした、協働的な学びを通して～
3	福 島	代表 神 尾 孝 弘	山 木 屋 中	総 合 的 な 学 習 の 時 間	地域について考え、地域の未来を拓く生徒の育成 ～各学年の協働性・系統性を意識したカリキュラムマネジメントの構築～
4	伊 達	代表 阿 部 裕 好	伊 達 中	学 習 指 導	「わかった」「できた」が実感できる授業づくり（3年次） ～タブレット端末を効果的に活用した授業展開の工夫～
5	伊 達	代表 菅 野 重 徳	釀 芳 中	学 習 指 導	主体的に学習に取り組み、学び合い高め合う授業の創造（5年次） ～個の学びを高める問題解決的な学習（2年次）～
6	安 達	代表 佐 藤 隆 宏	二本松一中	学 習 指 導	自ら学びをつなげ、深めた考えを伝え合う生徒の育成 ～生徒一人ひとりの思いや考えを豊かに伝え合う指導の工夫～
7	安 達	代表 佐 藤 聡	本 宮 二 中	学 習 指 導	新たな課題に挑戦し続ける生徒の育成 ～主体的に学ぶ生徒のゴールイメージを明確にした授業デザイン～
8	郡 山	代表 高 山 良 勝	明 健 中	学 習 指 導	対話を通して学びを深め・高め合う子どもを目指して
9	郡 山	代表 桑 名 秀 和	西 田 学 園	学 習 指 導	学び続ける子どもを育む西田の教育 ～「たて」「よこ」のつながりがつむぎだす学び～（2年次） 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
10	郡 山	代表 半 沢 一 寛	郡 山 三 中	学 習 指 導	「主体的・対話的で深い学び」を通した学力向上 ～タブレット端末とアナログ教材との最適な組合せを通して～
11	郡 山	代表 古 川 浩	富 田 中	学 習 指 導	主体的に学習に取り組み、学びをつなぐことのできる生徒の育成 ～学びを自覚し、次へ活用するための振り返り活動～
12	岩 瀬	代表 津 金 光 彦	鏡 石 中	学 習 指 導	生きて働く知識・技能・表現力の習得を図る授業の工夫と主体的な学びをうながす教育活動の充実 ～自ら学び、学びの習慣（サイクル）を確立する教育活動の充実～
13	岩 瀬	代表 濱 津 太	天 栄 中	学 習 指 導	探究的な学びを通して、夢の実現に向かう生徒の育成（2年次） ～「『天栄ならでは』の教育」を目指して～
14	石 川	代表 板 橋 敬 史	玉 川 中	学 習 指 導	主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～見通しと振り返りの充実を通して～
15	田 村	代表 佐 藤 知 巨	滝 根 中	学 習 指 導	ユニバーサルデザインの視点を生かした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（3年次） ～協働的な学びと振り返りの工夫【共有化】～
16	田 村	代表 菅 野 学	船 引 中	学 習 指 導	主体的・対話的で深い学びを実現させた生徒の育成（3年次） ～新たな学びに向かう力を高められるまとめ（振り返り）活動の工夫～
17	東 西 しらかわ	代表 高 田 健 一	白河中央中	学 習 指 導	確かな学力を身につけ伸ばす授業の創造 ～協働的な学びを通して、自ら学ぶ意欲を育てる学習活動の工夫～
18	東 西 しらかわ	代表 亀 田 征 利	大 信 中	学 習 指 導	確かな学力を身に付ける学習指導の工夫 ～生徒思考力・表現力を高める授業はどうあればよいか～
19	北 会 津	代表 藤 田 信 一	大 戸 中	学 習 指 導	主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創出と工夫 ～「学びに向かう力」を引き出す単元構想の工夫～
20	耶 麻	代表 園 部 毅	西 会 津 中	学 習 指 導	『主体的』に学ぶ生徒の育成 ～読解力（リーディングスキル）の向上を通して～
21	両 沼	代表 野 口 幸 哉	金 山 中	学 習 指 導	確かな学力を身につけ、生徒の自己肯定感を高める指導はどうあればよいか ～豊かな表現力を育む学習活動の工夫を通して～
22	南 会 津	代表 我 妻 雄比古	下 郷 中	学 習 指 導	つながる学びを通して、主体的に学びに向かう生徒の育成 ～生徒と地域と教師がつながる教科横断的な学習の工夫～
23	南 会 津	教諭 鶴 巻 厚 保	檜 枝 岐 中	学 習 指 導	自ら伸びようとする児童生徒の育成 ～少人数教育・小中一貫教育を活かして～
24	相 双	代表 塙 広 治	原 町 一 中	道 徳	思いやりの心を育成する道徳教育の創造 ～組織的な道徳教育の実践を通して～
25	相 双	代表 横 田 和 典	葛 尾 中	学 習 指 導	探究活動による主体性と協働、表現力の向上のために ～対話とICTを生かした表現力の育成～